

たいら ゆきお

あたたかい笑顔でみんなを守る



56歳

私の決意



突然発生した熊本・大分の地震は、各地に甚大な被害をもたらしました。国内で唯一稼働している川内原発を「すぐ止めて!」と願う声が日増しに高まっているにもかかわらず、九州電力は通常運転を続け、国や県もそれを容認しています。

私たちは5年前の福島第一原発事故により、原発の危険性と放射能の恐怖を経験しました。原発がある限り、県民の安全な生活と鹿児島の豊かな自然は守れません。

さらに、安全保障関連法(=戦争法)やTPP批准など、国いいなりの県政では県民の尊い生命と暮らしを守ることはできません。

私は、県民の声が大切に扱われ、原発のない安全で豊かな鹿児島、だれもが住み続けたいと願う鹿児島をつくるために全力を尽くします。みなさん、力を合わせましょう。



【学歴・職歴】●1959(S34)年56歳。鹿児島市生まれ。●県立錦江湾高校(5期生)。琉球大学保健学部卒業。●鹿児島医療生協入職、臨床検査技師として鹿児島生協病院などに勤務。【役員等】●県労働組合総連合議長歴任、事務局長(現任)。●全労連九州ブロック議長歴任。●医療労働組合連合会副委員長●鹿児島医療生協労働組合委員長・書記長歴任、副委員長(現任)。●鹿児島市立錦江台小学校PTA会長(2年間)。●鹿児島市立和田中学校PTA会長(3年間)。●谷山市民会館運営審議会委員(8年間)。●ストップ川内原発! 3.11鹿児島実行委員会委員。【趣味・家族】●読書、音楽鑑賞、バンド演奏(ギター)。妻、娘一人の3人家族。現在は鹿児島市坂之上に妻と二人暮らし。



後援会長(前知事候補)
向原祥隆

原発のない世界への第一歩が鹿児島から始まります。このチャンスに「たいらゆきお」さんが一大決心していただきました。ともに原発廃止の最前線へ。



ますみクリニック院長
青山浩一

たいらさんは、一緒に原発のゲート前に立ち、座り込みし、九電へと国道3号線を歩きました。これまで一緒に闘ってきたみなさん、ともにがんばりましょう。



医療生協労組書記
北山留美

様々な相談に対して、とにかく相手に寄り添い、最後まで諦めない。この人に任せれば大丈夫!と自信を持って言える人です。

たいら ゆきお 私の人生記

懸命に働く 両親を見て育つ

鹿児島市住吉町に生まれ、両親と一つ上の姉の4人で暮らしていました。父は、タクシーの運転手、母はスーパーの試食販売員で、その二人の働く姿を見て育ちました。

両親からは「人を裏切らない」「後ろ指をさされない」「常に謙虚であること」と教えられ、正直に生きることを学びました。子ども時代は、友達と外で遊ぶことが大好きな、元気いっぱいの少年でした。



相手がだれであろうと曲がったことは許さない

小学校5年生のとき、担任の先生の男子と女子への対応が違うことが子どもたちの間で問題になりました。話し合っ、先生に直接言おうということになりましたが、いざ、先生が目の前に来ると皆、尻込みしてしまい誰も何も言えませんでした。一人たいら君は、手を挙げて、「先生は差別していると思います。」と発言しました。子どもながらに「勇気があるなあ」と思いました。(同級生の証言)

命を守る仕事につきたいと 大学へ進学

幼い頃から医療関係の仕事につきたいと思い、父親の故郷である沖縄県の琉球大学保健学部保健学科に進学。沖縄での4年間は、米軍住宅と住民の住宅の違いなど、米軍基地が身近に存在することに、漠然と矛盾を感じていました。

父「たいら ゆきお」のこと

私は今年で23歳になります。父に教えてもらったことはたくさんありますが、その中でも『好きなことを思いっきりやりなさい』『友達を大事にしなさい』『人の為になることをしなさい』と教えてくれたことが、今の私を支え、生かしてくれているのだなと

思います。

いつも天真爛漫で快活な父ですが、人の為には自分はいらない、と言っているかのような性格をしています。普段は冗談ばかり言っているのですが、自分も父のように、人の為に行動できるような人間になりたいと思っています。父なりに、無理せず頑張っていると思います。娘 優子

3つのNO! 川内原発NO! 安保法制(戦争法)NO! TPP批准NO!

みんなが幸せにくらせる社会をつくること
——これが私の活動の原点

たいらゆきおのこんな思い



2号機の再稼働反対のゲート前集会を支える
(2015年9月10日)



九電本店での交渉をめざして12日間歩くリレーデモの
出発集会 (2015年5月16日)



戦争法廃止の宣伝行動
(2015年10月3日)



熊本地震後、川内原発の即時停止を求めて県庁前で座り込み
(2016年5月13日)

患者さんの命にたずさわりながら

社会保障の削減を許さず、
平等に命を、守りたい

たいらゆきおは、大学卒業後、検査技師として、医療生協に就職しました。患者さんの命に携わりながら、誰もが安心かつ平等に医療を受けられることの大切さを学びました。

国による社会保障費の削減が進んでいく中で、治療を受けたいと思っても、自己負担が大きく、途中で治療を中断する人もいます。また、治療費の負担が心配で、病気が深刻になってからようやく受診する人もいます。

たいらゆきおは、誰もが、お金の心配をしなくても、安心して必要な医療が受けられる社会をめざします。

労働組合の役員の仕事を通して

働く人たちの
暮らしと権利を守りたい



たいらゆきおは、労働組合の役員を経験する中で、組織をまとめていくために、いろいろな人の話をよく聞いて、みんなが納得いくまで話し合うようにしてきました。また、働く仲間たちの暮らしと権利を守るために、経営者に対して、はっきりとモノを言って交渉してきました。

多くの労働相談を受ける中で、鹿児島の労働者が「長時間勤務」「賃金不払い」「パワハラ」など、時間や賃金などの待遇について、とても厳しい状況にあることが分かり、その解決のためにがんばってきました。たいらゆきおは、働く人たちの人権が守られ、誰もが安心してくらせる鹿児島をめざします。

みんなで力を合わせて

原発をなくして
子どもたちの未来を守りたい

二〇一一年の福島原発事故から五年がたちました。たいらゆきおは、この間、多くのみなさんと共に、川内原発再稼働ストップのために、何度も集会や抗議行動を行ってきました。たいらゆきおは、福岡の九電本店までのリレーデモで歩いたり、ゲート前のハンストにも参加しました。川内原発の再稼働を止めるために、みんなで力を合わせていくことに喜びを感じながら頑張ってきました。

今度は、鹿児島県政において、みなさんと力を合わせて、川内原発を今すぐ止めて、廃炉にするために力を尽くしたいと決意しています。